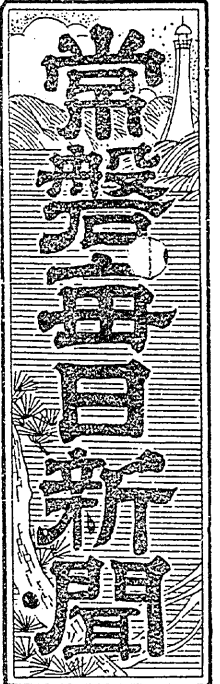


刊夕日一十二月一



定価 一部全紙一ヶ月五拾銭 郵費五拾銭
 廣告料五拾銭 一週一行金五拾銭
 口 常 警 日 新 聞 日 休 刊
 発行所 常 警 日 新 聞 社
 印刷所 常 警 日 新 聞 社

牢獄と蜘蛛と
 こうろぎ 三

白土五郎

蜘蛛 公

クモ公、アリを見かけて
 一直線に走つて来たかと思
 ふとバクと喰へつき一目さ
 んに根據地に引つぱり込ん
 でしまつた。オヤ／＼クモ
 公は戦術を變へたわい。こ
 れは面白い、悪戯者は、翼
 のある大きな強そなアリ
 を見つけて、これならば體
 からしてこの大きな口から
 してクモ公とは五分の闘争
 はするであらうと、大きな
 興味を持つてクモ網の中に
 投げ入れた。蛛公スワウと
 飛びかゝつたと思ふ間に根
 據地に引つぱり込んだ、根
 據地内で死にもぐるひひの
 闘争は展開された。根據地
 内の闘争では蛛公は八分の
 勝ちみがある。流石の猛勇
 な蟻も完全に粘網にグル
 ン／＼巻きにせられ身動きも
 出来なくなつた。蛛公は安
 心して悠々と生血を吸ふて
 ゐる。蛛公は習性的生活を
 打開した、今迄では如何に
 小さい虫でも用心して臆病
 らしく遠くから粘網を巻き
 身動きが出来なくしてから
 しか根據地に持つて行かな
 かつた。彼は、幾度も幾度

も獲物を奪へ取られて、苦
 しみ困り抜いて新しい戦
 術を考へたのだ。習性
 的生活から創造的生活への
 飛躍だ。こんなこん虫でさ
 いも、生活の飛躍があるのか
 彼は幾日かの思索と熟慮の
 結果、傳統的生活を打破し
 て、大膽に勇敢と獲物に慕
 進して、彼は完全に生きる
 道を開拓した。

吾々人間の仲間にはこの

○ 0000000000
 〇 0000000000
 〇 0000000000
 〇 0000000000

【朝】味噌汁：大根 小付
 生玉子 香物
 【晝】焼竹輪 おろしわか
 び 小付 牛肉 大
 和煮

【晩】湯豆腐 こんぶし
 付合せ 馬鈴薯から
 揚

蛛公に劣るものはないだ
 うか。俺などはこの蛛公に
 劣る方だ、太陽が上る、起
 きる顔を洗ふ、飯を食ふ、
 仕事をやる、教へられた通
 りに、夜になると寝る、か
 くの如く一日／＼と傳統的
 と習性的の惰性で貧乏に苦し
 んでゐる。泣いてゐる、も
 がえてゐる、それだとして傳
 統的習性的の惰性を打破しや
 うともせず、況んや新らし
 い生きる道を開拓しやうな
 どはしつこない。ただ傳統
 に引きずられて行く。クモ

にも劣る人間。ある學者が
 習性的生活、創造的、活
 本能的な生活、創造的生活と
 分けて人間の創造的生活
 があつたなんて主張してゐる
 か、こん虫にも創造的生活
 はある。俺は現に毎、見て
 ゐる實驗してゐるのだ。進
 化論から行けばあたり前の
 ことだ、クモの智識にはお
 どろかされる。

俺の室の窓の左右に二匹
 のクモがある。腹の丸い黒
 い、足に斑点のある奴だ、
 なんと云ふクモだか知らな
 い。これもなかく、面白い
 奴だ。左側のクモ公は鐵窓
 と目隠し板の間を横行する
 虫を取る計劃からやゝたて
 に高く網を張つた。ところ
 が獲物はなく風や雑役に何
 時も網を打ち破られる。そ
 れで一日に二度も三度も網
 を修繕してゐるのは氣の毒
 でもあり、その勤勉なのに
 は感心してゐた。幾日も
 〱／＼はせずに働くので腹は
 小さくなり、よくもあんな
 に糸が出るものだと思ふ様
 だつた。ところが彼はその
 網を少しづつ低く張つてゐ
 た。するうちに左端の下に
 一匹のガがひつかかつた。
 俺もやれ／＼と自分のこと
 のやうに悦んだ。クモ公は
 貪るやうにして喰つてしま
 かつた。

◇◇ 平町呉服商組合 ◇◇
 一年中の御禮として 安賣と大競争
 良品大廉賣 各店競ふて 大景品の山

吉 例 一 日 市 初 賣

午前一時開店

商品券

當日は例年に倍し賑々しく御来店の上御用命を御待ちいた
 します

- 組合 加盟店
- 伊 關 吳 服 店(平 二丁目)
 - 小 野 榮 吳 服 店(平 二丁目)
 - 渡 邊 吳 服 店(平 土橋)
 - 川 又 商 店(平 白銀町)
 - 吉 田 屋 吳 服 店(平 鍛冶町)
 - 谷 屋 吳 服 店(平 新川町)
 - 松 屋 吳 服 店(平 播磨小路)
 - 安 積 屋 吳 服 店(平 古鍛冶町)
 - 北 川 吳 服 店(平 研町通り)
 - 三 井 吳 服 店(平 三丁目)
 - 諸 橋 吳 服 店(平 新川町)
 - 仙 臺 屋 吳 服 店(平 一丁目)

吸入用酸素純度 99%

モノサシ 体温計
 マ ス 寒暖計
 ハカリ 器量計

秤ノ取緒。垂糸。修繕致シマス

關内藥局

電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

石炭
 コークス
 豆炭

阿部石炭店

電話三十七番

玉屋洋品店

平町田町通電話六五六番

一册の代金で
 御希望通りな
 五册の雑誌が
 自由に讀める
 川崎 回文庫
 電話六三〇番
 (申込次第規則書送呈)

店主が	を連れ	か	正	正	正
行	て	れ	シ	シ	シ
行	行	る	イ	イ	イ
行	行	酒	酒	酒	酒
行	行	場	場	場	場

平・田町
 レストサロン
 電話一五二番

待望のガソリン車

製作關係で延期?

民間工場の納期完成困難で

結局四月一日頃運轉開始

既報愈々三月十五日より地方民待望の裡に運轉する事に決定した平驛を中心とするガソリンカーは平驛に常備する新車体三臺を目下東京、名古屋等の民間工場で製作中であるが納期迄の完成は困難となつた結果、三月十五日よりの運轉には間に合はず四月一日頃まで實現を延期される模様である

通常總會

各信用組合の

大浦信用組合總會は来る廿六日開くが當日は江名、磐崎兩組合總會があり更に廿八日には磐城販利組合、廿九日は大野村組合の總會が開かれる

風邪を引かぬ

平町の學童

一日平均七十六名欠席

本格的な冬に入つて感冒大流行の折柄平町各小學校は兒童が風邪に罹らぬ様細心の注意を與へてゐたが去る十六日以降の學童欠席数は

△平第一校(十六日)六十三名(十七日)六十五名(十八日)九十二名(二十日)八十五名

△平第二校(十六日)八十一名(十七日)七十七名(十八日)八十九名(二十日)九十三名

△平第三校(十六日)三十三名(十七日)七十一名

夏井信組總會

夏井信用組合は去る十九日の總會で役員改選の結果組合長は木田森之助氏再選、専務理事は當分保留する事に決定した

學校に開會、十一年度豫算その他を附議する

選舉肅正

各地懇談會

飯野村大字谷川瀬部落選舉肅正懇談會は十九日開き出席四十名

× × ×

内郷村大字高坂部落選舉肅正懇談會は十九日午後一時半より開き出席六十名、違反防止を申合せた

四倉茶種油躍進

大量納入着々實現

兩兵器製造所へ各千本宛 尚品質改良して海軍も狙ふ

石城販賣利用組合は昨日縣廳で行はれた陸軍の凶作地副業品質向上同組合四倉茶種油工場製品を提出したが品質優良を認められ一斗罐入茶種二千本の納入を許可されたので近く王子名古屋兩兵器製造所へ千本宛發送する事になつたがこれに力を得た同組合は近く海軍側へも納入すべく品質の改良を計つて居る

郡山石城郷友 郡山市在住石城郷友會は廿三日

午後五時から同市旗亭輝で新中宴會を催し兼ねて春季總會を行ひ會長改選を行ふが大体鈴木仙松氏が推薦される模様である

磐東銀行總會 植田町株式會社磐東銀行の第八十期決算株主總會は二十日午前九時から同行内に開き金成専務議長となり今期業績を報告した人絹景氣と爾等々前期に比し利益増加したが繰越金を多くして配當は二分四厘の据置とした

本廿一日午後三時十二分議會 解散さる 選舉期日は二月廿日決定

政戰の空氣濃厚

速く平局選舉對策

洪水する文書戰を豫想 臨時も加へて万全の配致

本日中の議會解散に依り平郵便局では早くも衆議員選舉の文書戰に準へる計劃に大童べだ、何しろ昨年の縣議戰には引受發送共五十萬の文書を取扱つた同局管内石城双葉、相馬の第三區衆議員選舉資格者は前回の昭和六年より五千九百七十六人を増加して居るので同局では近く臨時配達六名を増員區別係員も局内各課を總動員して待期する事になつた

丸山慶治氏

上京中急逝

平町搔樋小路土木請負業合資會社丸山組代表社員丸山慶治氏は所用上京中急性肺炎に罹り昨日午前十一時四十分急逝した 享年六十四 同氏は平町土木業の元老として盡す處多く今回の訃報は業界より非常に惜まれてゐる、尙葬儀は舊正月を遠慮して二月九日午後一時より九品寺で執行される

平町人事

回婚 姻

△材木町一五當時内郷村大字綴字一ノ坪六一佐藤清吉氏(三六)相馬郡金房村●谷字元屋敷六八宮川ヨシエさん(二八)

上田病院

平町 南町 電話二二九番

舊二日市景品に就て

一、現金にて御買上の方に景品を差上げます

一、現金にて商品券御買上の方にも同様景品を差上げます

一、但し商品券にて品物御買上の場合景品は差上りません

二、二日市の景品は右の通り御實行下さる様希望いたします

平商工會

平町各商店 御中
平町御客様 御中

萬年筆なら!!!

ハ一モニカなら!!!

何んといつても定評ある 佐々木商店へ

大景品付二重サービス

萬年筆美麗金文字御名人

ハ一モニカ大懸賞付

舊二日 三日

平公園前 角 佐々木商店 電話二三五番

驚いた。平地方異變

今朝の気温零下九度

例年より厳しい寒氣來

水道事故頻々。卵も氷るです。實に本年最高の殺人的超記録

數日來東北各地は猛烈な降雪に襲はれた爲め寒入りから例年にならぬ寒さの平地方の気温は益々低下した殊に本廿一日朝平町水道部の水道事故修理は最近になり多忙を極めたので神谷農事試験場に気温を照會して見ると寒い譯!!今朝の気温は實に零下九度、寒さで去る十七日の零下七度四分の記録を破つて本年最高の寒さであつた、同試験場の調

鹿島區長改選石城

郡鹿島村では過般の村會で大字御代區長八代義次氏の満期改選を行つたが後任に鈴木陸武氏が當選、次いで三澤區長の四家一與氏の満期改選は吉田正徳氏に決した

宵の小名濱に

怪盗出現

頻々と盗難事件發生

平町二丁目伊關吳服店々員平山武雄(五)は昨日夜七時頃小名濱町中島本通りすまや車小濱長太郎氏方に立ち寄り用談中、道路側に置いた自轉車から吳服類(價格三百圓)在中、風呂敷包を何物にか窃取されるを見、青くなつて届け出た前記犯行はほんの瞬間に行はれたもので同町目貫の場所でも丁度人の繁往する時刻であり同町は最近本通りの某薬店に

舊歳末賣出に

道路使用

平商工會が代表許可平商工會は近づく舊年末及二日市當日の雑沓や店頭裝飾を見越して町内各商店を代表し道路使用許可願を平

暮の商店街異彩

平銀座會進出

結成披露を兼ねて奉仕賣出

平銀座會は去る五日同町田町酒喜屋で開き會長金子直祐氏(金子酒店主)副會長室橋光氏(玉屋洋品店主)幹事金子宗平氏外七名の役員決定を見たが十八日より五日間、之が披露を兼ねて目下舊歳末奉仕賣出を開始中である。同會は平町驛前遠藤パンやより大黒屋洋品店並に

尊い汗の結晶を

満洲の兵士に贈る

喜しい平第三校女生の美舉

(既報)寒風に吹かれて街に納豆を賣つてゐた平町第三小学校四年生遠藤文子さん外十名は賣上一圓八十錢を極寒の満洲に働く兵隊さん

明日のラジオ
廿二日
天候 今夜は晴明日も同様

今晚の部

- 後六、〇〇 子供時間 獨唱と管樂 菊池十代 仙臺交響樂團
- 後六、二五 青年の時間 一フランクソンの青年時代 澤田謙
- 後七、〇〇 講演「現代生活 無くしてならぬゴムの話」鳥谷部愷
- 十七日午後
- 後八、〇〇 常磐津「友鶴」 常磐津勝榮他
- 後八、二〇 室内樂「モーツアルトの絃樂九重奏曲 第二」望吉雄 他
- 後八、五〇 小唄 夢胡伊久他
- 後九、〇〇 立體漫談「お見合道樂」藤原金足他
- 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

明日の部

- 前七、〇一 英語講座 二百瀬市
- 前七、三〇 朝の修養「鳩翁道話」三乙竹岩道
- 前九、〇〇 家庭メモ
- 前九、一〇 婦人講座「手紙、書き方」三木枝増
- 後〇、〇〇 h ジャズ クロージャーンド・ヒズ・ミュージック
- 後〇、〇〇 家庭講座「遺尿症について」平野忠七
- 後二、四〇 小學高一年時 國史乃木大將の話
- 堀江秀雄、渡邊緑村 後三、一〇 教師の時間 「小學校に於ける工業教育」安達禎
- 後五、三五 放送俳句「梅」 披講 増田手古奈
- 後六、〇〇 子供時間 合唱 J.O.A.K 唱歌隊
- 後六、二五 基礎英語講座 二 岡倉由三郎
- 後七、三〇 趣味講座「日本近世歌謡の變遷」高野辰之
- 後八、〇〇 一人一話「トキキ」前「徳川無聲」饒舌半時間「馬場孤蝶」先輩の噂「伊藤痴遊

舉動不審の鮮人

犯行を自白

ルンペン盗みの行脚か

廿日夜四倉署に舉動不審で逮捕された自稱朝鮮黃海道金千郡西北面生れ山口新光こと鄭開龍(鄭)は取調べの結果 去る十六日夜双葉郡久之濱町字濱川三鈴木丑三郎方に忍び入りブラチナ指輪 クローム腕時計その他數点價格五十四圓餘を盗んだこと自白

愛犬疾走

平裁判たより

平署司法主任齊藤警部補が昨年申莫大な金を投じて求

平職業紹介所報告

- 回 人を求める方
- △配達夫 卅才前後 通勤 月給廿圓 住込十五圓
- △女中 卅才迄 月給五圓
- △炊事婦 四十才迄 月給五圓
- △トラクタ運轉手 卅才迄 月給四十圓
- △漁業雜役 廿五才迄 月給十圓
- △粕 卅才迄 月給十圓
- △女工 廿才迄 月給七圓
- △通勤日給三十錢
- △小店員 廿才迄 月給五圓
- 回 職を求める方
- △集金人 四十六才 高卒



瓦解の謎 (築上 珠) 悟道軒圓玉 (作) 丸尾至陽 (畫)

二九二人とも川中に
古人曰く、馬鹿は隣家の
火事より怖い、低能な長六
お花の不在中にその住居に
忍び込み華袋に入つた金を
取り、なほ座敷で酒を飲ん
だが大分酔ひがまはつて
長「い、心持だ、酒に酔
つた気分と湯に入つたとく
さめをした時は公様も俺も
同じやうな気分だ、あ、酔
つた、馬鹿に眠くなつて
来たせ、こいつは一寝入り
して出かけやう、寝るとす
るとこに床も取つてあり
蚊帳も吊つてあるから便利
だ、それはねいさんの寝る
床、とても柔かい、い、布
團だ、こゝへ寝たら快い
心持だらう、どんな夢を見
るか、龍宮へ行つて姫様に
惚られて婿になる夢を見る
だらうな、ドレい、夢を見
ることしやう、へ、誰方
もお先に御免を蒙ります、
アハ、有難い、」

蚊帳をかゝりて中に入り、
真紅の房の付いた船底枕を
してごろりと横になつたが
雷のやうな軒をあげて寝ま
した、すると女中部屋にあ
たはおかね、長六の軒で眼
を覺まし
かね「おや、あれは風、し



ら、それとも雷様かね、オ
ヤ、姐さんのお部屋から
聞えて来るが歸つたのかね
姐さんはあんな大きな軒を
聞いたことはないか、妙な
ことがあるものだ」

とおかねが奥に来て見ると
蚊帳の中に色の黒い大きな
男が寝てゐます、びつくり
してしばらく見詰めてゐた
かね「お前何んだ、ちよ
いと起きておくれ、まア呆
れたね、この人には」

バラリと蚊帳を吊手よりと
つた、寝てゐた長六の顔に
蚊帳がフワリと落ちた。
長「誰だ、え俺の顔を甜め
るのは
かね「お前は何んだ、え」
長「さういふお前は誰だ」
と云ひつゝ蚊帳を取りのけ
て床から這り出た長六、大
きな欠伸をして
長「オ、お前は何んだ、え、
何處からこゝへ入つて来た
ウム判つた泥棒だ、」
かね「わたしはこゝの女中
ですよ」

たんだ居ねえから歸りを待
つためにこゝで一とね入り
してゐたのよ」
かね「どこから入つて来た
の」
長「表もうらもしまりが殿
重で入ることが出来ねえか
ら、屋根づたひに引窓から
入つて来た、それが悪い
か」
かね「まア何といふこの人
は悪い人だらう、また姐さ
んに何んの用があつて来た
の」
長「金を借りに来たが、姐
さんが不在だから黙つて借
りて行くことにした」
かね「それではお前泥棒だ
ね」
長「何だと泥棒だと、何時
俺が泥棒した」
かね「ことはりなしにお金
を持つて行けば泥棒に相違
ない、ちよいとお前はふと
ころに何か入れてゐるね、
それを置いておいで」
とおかねが長六のふところ
へ手を入れて引き出した革
袋長六は、その手をおさへ
て
長「やい何を、これは
俺が借りたものだそれを取
るとは——泥棒」
かね「何をいやる、これ
を置いて行け」
革袋をおさへ付ける、長六
はその手を振り拂つて行か
ふとするおかねは足をおさ
へて泥棒と叫んだ、長六は
おかねに足をおさへられた
ま、廊下まで来たがおかね
が立ち上つてうしろから獅
子噛み付く、この女が強い
こゝで長六と組合つたがゴ

ロ／＼とこががつて雨戸に
あたる、ビシッツと音を
立て、棧が折れて雨戸が外
れる、同時に二人は組合つ
たま、庭に落ち格闘し、追
ひし追はれつ終に二人は組
合つたま、つるりと足がな
がれて二人は水音高く川へ
落ちた

美味！
芳醇！

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

貴方の御家庭に

お手不足は御座いませんか

本會を御利用下さい

直に家政婦を派出します

親切 料金は極め低廉で
妊産婦の御家庭 お留守居番
御病人の付添 年寄やお子さんの付添
炊事や難用

派出多忙に付會員至急募集

平町紺屋町二(電話二二番)

上原家政婦會

會主産婆 上原通子

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお奨め致します

平町田町六九

喜多流 仕舞 白土會

電話二二七番

年末年始の

御贈答に

鯉節



(三一二電) 目丁四平